



「V15」計画の達成を目指し、さらなる収益力強化を図ります。

代表取締役 社長執行役員

梶尾和雄

第2四半期連結累計期間の業績

売上高	159,995 百万円 (前年同期比 105.5%)
営業利益	15,815 百万円 (前年同期比 149.4%)
経常利益	16,391 百万円 (前年同期比 166.9%)
四半期純利益	10,371 百万円 (前年同期比 183.0%)

Question 1 当上半期の実績と今期の見通しは。

当上半期の業績は、各事業での強化施策が成果をもたらし、順調に拡大しました。売上高は時計のブランド製品および電子辞書や電卓の売上拡大などにより増収となりました。営業利益は時計事業に占める高価格帯モデルの比率アップ、電子辞書や電卓の売上増、「自分撮り」に最適なデジタルカメラのハイエンドモデルの好調などにより、コンシューマ事業が大幅に増益となりました。当上半期の全社の営業利益率は過去最高の9.9%となり、通期の目標である10%の水準にほぼ達しています。

Question **2** 今後の経営方針と具体的な施策をお話してください。

当社は2015年度に全社の営業利益率を15%にする「V15」計画の達成に向けて、引き続き既存事業の強化と新規事業の確立に注力します。

時計事業では、独自技術を投入したGPSハイブリッドウォッチやスマートフォン連携Bluetooth® ウォッチの拡販を進めます。デジタルカメラ事業では、新しい撮り方を提案するセパレート型の新モデルを投入して市場の拡大を図ります。システム事業については、収益性の高い事業への経営資源の集中や新商品開発の強化を進めます。

新規事業においては、サイネージとデジタル絵画の展開を強化します。サイネージ事業では、屋外でもよく見える明るさと、キャラクターによる高いアテンション効果を生かし、店頭を訪れた人に働きかけて販売促進を行う「店頭サイネージ」の分野を強力に開拓します。スクリーンも起伏を持つ立体的な形状に進化させ、映像の立体感を強めて一段とアテンション効果を高めました。表示と音声の言語を簡単に切り替えできるので、今後増加が見込まれる外国人観光客への案内などの用途も見込まれま



©JAPAN POST Co., Ltd.

す。デジタル絵画事業では、日本郵便様のオリジナルキャラクター「ぼすくま」などのキャラクターや、絵画をデジタル技術で立体的に

表現した「カシオアートレリーフ」を、クロック機能付きの「カシオアートフレーム」に入れて楽しめる新たな商品や、ギフト市場向けに展開しています。

Question **3** 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社は「V15」計画の実現に向け、経営体質の強化を着実に進めています。業績に連動した株主還元という方針の下、当上半期の業績の好調を踏まえ、今期中間配当を昨年の10円から12円50銭に増配させていただきます。

今後も当社は、斬新な企画と高い技術力で世の中に新しい価値を提供し続け、さらなる成長を目指します。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

配当金の推移

